

もしもの備えは、 いつもの準備から。



訓練をして、見えたこと、感じたこと

避難所では、受付での名簿作成、避難スペースの区画整理、物資の配布、情報提供、要配慮者への支援など、多くの作業を同時に進める必要があります。円滑に運営するためには、役割分担や動線の確保、情報共有が欠かせません。

本市では防災指導員、自治会を対象に、9月6日に避難所運営訓練を実施しました。訓練では、避難所運営に関わる資機材の取り扱いや避難所運営本部模擬会議を実施し、運営の全体像を確認しました。実際に段ボールベッドを組み立て、パーティションで区画し、居住空間を設定することで、どこに、何が、どのくらい備蓄されているのか、どのくらいの人員が必要なのか把握することができました。また、簡易トイレや立入禁止エリアの設定をし、避難所開設準備に必要な活動のイメージを全体で共有しました。

避難所運営本部模擬会議では各班からどのような報告がされ、検討・対策が決められるのか再認識されました。



参加者は「資機材の使い方や設置の流れ、運営会議の全体像が具体的にイメージすることができた。円滑な運営には地域の連携、協力が必要不可欠で繰り返し訓練が大切だと感じた」と振り返っていました。

男女共同参画の視点から考える 避難所運営ワークショップ

避難所運営の基本を学びながら、男女共同参画の視点で多様なニーズと対策を考えます。

時 11月25日(木)、18時30分～20時30分
所 第五地区センター会議室

対 講師／あざれあ防災講師団
定 地域防災に関心のある人
申 30人（先着順）
日 10月8日(木)、8時30分～11月13日(金)、17時に専用フォームまたは電話で

申 問 危機管理課
☎ 055-934-4758

QRコード
専用フォーム

**災害が起きたとき、
あなたはどこに避難しますか？**

近年、全国各地で地震や豪雨などの自然災害が相次ぎ、私たちの暮らしは常に災害と隣り合わせにあります。本市では、南海トラフ地震が発生した場合、最大震度6強の強い揺れや、津波の被害が想定されています。災害が起きた時に慌てずに行動するためには、自分や家族の状況を踏まえ、どこへ避難し、その後のように過ごすのかをあらかじめ考えておくことが大切です。日頃の備えを確認し、いざという時に落ち着いて行動できるよう、ぜひ最後までご覧ください。

命を守る「避難地」と 生活を送る「避難所」「在宅避難」

大きな地震が起きた時、どこへ避難するかは、自宅や周囲の状況によって異なります。

自宅や周辺に危険がある場合、一時的に身の安全を確保するための場所が学校のグラウンドなどの「避難地」です。そして、災害の危険がなくなった後、自宅で生活できなくなった人が、一定期間生活する場所が学校の体育館などの「避難所」です。避難所は、共同生活のため、決して快適な環境とは言えません。

一方、自宅が安全であれば、住み慣れた環境で生活続ける「在宅避難」とい

う選択肢もあります。ただし、在宅避難には、家庭での備えが欠かせません。特に、食料や水、トイレの確保に加え、家族の人数や生活環境に合わせた備えが重要です。10月18日(日)に総合防災訓練を控えた今回の特集では、避難所の実際の様子と在宅避難のポイントを紹介します。

避難所ってどんなところ？

避難所は、災害によって自宅で生活ができなくなった人が、仮設住宅の整備や自宅の復旧が進むまでの間、生活を送るための場所です。

避難所では、食料や水、毛布、仕切りなど生活に必要な最低限の物資のほか、生活再建に関する情報の提供など、被災した人の暮らしを支える拠点となります。一方、子供から高齢者まで様々な人が集まり、限られたスペースで共同生活を送ります。そのため、感染症対策やプライバシーの確保、生活のルールづくりなど、安心して過ごすための工夫や配慮が欠かせません。

避難所は、地域の自主防災組織が中心となり、市や施設管理者、そして避難者一人ひとりが協力して運営することが求められます。避難所の特徴を知ることが、災害時に自分や家族が過ごす環境を整えるための大切な一歩です。では、実際に地域ではどのように避難所の準備が進められているのでしょうか。



知ってますか？ 避難所・防災倉庫にあるモノ・ないモノ

避難所や防災倉庫には、災害時に役立つ多くの備蓄品が用意されています。何が備えられているかを知り、使い方をあらかじめ確認しておくことが大切です。ここでは、備蓄品の一部を紹介します。詳細は、市ホームページをご覧ください。



断水などでトイレが使えないときに使用する簡易トイレ。排せつ物を凝固剤で固め、衛生的に保管・処理できます。



パーティションは避難スペースを仕切り、周囲からの視線を遮ることで、プライバシーを確保します。



ダンボールベッド。床からの冷えや硬さをやわらげ、避難所での生活を支えます。

備蓄品のホントのところ

避難所に備蓄されている物資は、災害発生直後の生活を支えるための「初動用」が中心です。種類や量は避難所ごとに異なり、すべての避難者に十分な量が行き渡るわけではありません。災害時に安心して過ごすためには、家庭での備えが欠かせません。



医療品は種類が多く、個々の症状に対応できないため、常備薬・処方薬・医療用の個別用品は備蓄がありません。

